

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100459		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮1丁目9番地の5		
自己評価作成日	平成27年11月12日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100459-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 笑顔と元気をモットーにしています。
2. 入居者様に安心して生活していただけるように家庭的な環境、真心を込めて支援いたします。
3. ご家族様支援も大事に考え実践しています。
4. 質の良いサービスの提供ができるように職員のスキルアップを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人の複合施設の4階にあり、医療面でも訪問診療や訪問看護、薬剤師居宅療養、訪問歯科と連携している。緊急時には上階の訪問看護が24時間オンコールで職員、家族の安心に繋がっている。家族が協力的で行政への申請や訪問診療の立ち合いを行い、面会や一緒にの外出も多く家族との良好な関係を構築している。職員は理念を意識して、「笑顔」と「気づき」を大切に、楽しく不安なくすごしてもらえるようきめ細かい支援に取り組んでいる。室内清掃を徹底し、浴室やトイレ、洗面台等清潔にすることで菌の発生や感染症の予防となっている。職員の特性を活かし役割を持たせることで働く意欲や資格取得のサポート等で質の向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:27年 12月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員詰所、ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、全職員で理解・実践している。	法人の理念を基に、地域密着型サービスの意義を踏まえて、事業所独自の4つの項目を掲げて作成されている。利用者が安心して過ごせるように、ちょっとした気づきも工夫して手間暇かけて取り組んでいる。定例会等で理念を振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に係わる4自治会の清掃活動、敬老会や新年会、民生員忘年会などの行事に協力・参加して交流を図っている。	事業所周辺の散歩や近隣の保育園児等が来所する等交流している。継続して自治会主催の清掃活動や行事等の場所(複合施設内)の提供や会場設営、音響、受付等に協力参加している。管理者は自治会やミニデイサービス等で介護予防教室、認知症講座の要望があれば協力できる事を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の行事や運営推進会議の場において、ホームの取り組み等の説明をさせてもらい入居する認知症の人のりかいや支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、ホームでの現状、支援内容の報告、那覇市や地域包括支援センター、地域自治会との情報共有を行っている。	運営推進会議は利用者、家族、行政、地域の方が参加して年6回定期的に開催されている。会議では事業所の状況や行事、事故、ヒヤリハット、外部評価についても報告している。また、「介護事業所について」や事業所が取り組んでいる「抑制廃止」等、活発に意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月毎の「那覇市グループホーム連絡会」への参加し、情報交換や市の担当者からのアドバイス等、交流を図っている。	市担当者とは、運営推進会議や市のグループホーム連絡会で情報交換、意見交換している。介護支援専門員は、利用者の入れ替えや空床が続き市担当者との連携を図っている。毎月、空き状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体抑制が必要と判断された場合には、ご家族への説明と同意を得て、介護記録への記載、抑制解除に向けてのカンファレンスを行っている。	昨年2家族より、転落防止の為4点柵の要望があり、リスク等も話し合ったが、安全確保のため実施している。家族に毎月説明と確認を得て経過を記録し、管理者、職員は抑制解除に取り組み、1名は解除に繋げている。	

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内、外部勉強会に参加し学び、職員全体で虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで該当者がいないため支援を行ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書の書面、口頭にて十分な説明を行い、入居者様やご家族が理解、納得した上で契約、解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事への参加呼びかけしています。家族会は、12/21に予定、家族会では意見・要望を確認するようにしている。	家族からは家族会や面会時に状況を伝えながら聞いている。「食後、就寝時までホールで過ごさせて」の意見は反映し、「屋上使用」の要望にマニュアル作成中である。利用者には直接聞いたり、表情で汲み取ったり、表情を固けている時は声かけして聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例ミーティングにおいて職員の意見、要望を聞きだし、提案された事項は迅速に検討、反映されるように努めている。	職員からは定例ミーティングや不定期な面談で意見を聞いている。「年末掃除や衣替えは家族も一緒にしてほしい」の意見は家族会に提案の予定である。行事、整備、広報、教育等委員の役割を持たせ、職員が仕事内容、物品購入と計画を立てる等、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理は常に配慮している。また、委員会の配置は各々の得意・不得意を考慮し、力や能力を活かせる工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(認知症・救急救命)への派遣、定例会で研究発表する機会を設け、自己研鑽を図っている。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護者研修やガウディー会への参加、他事業所との交流を通してケアの質の向上、モチベーションアップを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の実態調査において、本人様の要望や不安などを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を確認、ホームのサービス内容、家族支援内容の説明を行い、ご家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基に詳細にアセスメントを行い、入居時の本人様の観察をして必要なサービス、方向性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で炊事や家事、水撒き、洗濯物干し、たたみなど、各々に合った役割を設け、手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会の声掛けや誕生会、行事等にご家族を交えた活動を通して、入居者様が孤立しないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会、行き付けの美容室への同行外出等の体制づくりを行っている。	地域社会との関係性は、本人や家族、面会者から聞いて把握に努めている。馴染みの美容室に職員と通う、予防接種を馴染みの病院へ家族で行く等している。親族が利用者のお友達と一緒に来訪や家族とふるさとの県外に出かけている。	

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓席の配慮、余暇活動への参加声掛けを行い、入居者様が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の相談できる機会づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認が困難な場合でも、ご家族からの情報を参考に入居者様に合った支援に努めている。	利用者の思いや意向は、日々のケアの中で常に聞いて把握に努めている。把握が困難な場合は、仕草や家族の代弁で把握に努めている。「編み物が好き」「勉強がしたい」との意向に家族に相談したり職歴を把握して検討して行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の実態調査において、本人様やご家族から十分に話を聞き、入居前の事業所からの情報提供を依頼、把握してホームに入居しても極端な環境の変化が起こらないように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の変化に気をつけている。毎日10時と14時に職員ミーティングを行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員は、定例ミーティングにおいて入居者様、ご家族からの要望、意見等を報告し、職員からは介護状況の情報を共有し、迅速に対応している。	介護支援専門員は職員から情報収集し、サービス担当者会議に本人、家族も参加して開催されている。モニタリングは3か月毎に実施している。薬剤師居宅療養、訪問歯科の導入を介護計画に位置付け、随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者各々の状態、様子等を個人記録へ記入して職員間で情報を共有し、迅速に対応している。		

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望、意見等がある場合は、迅速に検討、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービス計画書を作成する前には、介護職員から情報収集を行い、プラン作成に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべての入居者は法人内の「クリニック安里」からの訪問診療により、適切な医療を受けている。 また、病状によっては、往診での対応も可能である。	月2回の訪問診療、同施設内の訪問看護の24時間オンコール体制を構築している。毎朝訪問看護師から利用者の状態を医師に報告し、訪問診療時は家族も立ち会い、情報は電子カルテで管理して共有している。薬剤師による居宅療養管理指導で、薬の飲み合わせや誤薬防止の対策をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内の「訪問看護ステーション」と24時間連携し、入居者様の体調管理、薬剤師による薬剤管理指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の経過報や情報提供を行い、退院前のカンファレンス会議等への参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を優先に、これからもご家族、訪問診療、訪問看護、関係者、介護スタッフチームとなって支援に取り組む。	終末期の対応方針を入居時に説明し、利用者の状態に応じて繰り返しの話し合いを行っている。医師、看護師の24時間オンコール体制があり、看取りを経験し職員皆でエンゼルケアを行った。今後はグリーフケアが課題と勉強会にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、設置している。全職員、AED研修を受講して知識、技術の実践力を身に付けている。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者の変更登録のため、今年度の訓練は未実施である。 災害時マニュアルの作成、掲示を行っているが、地域との協力体制は未だ確立されていない。	昨年12月に夜間消防避難訓練を実施しているが、複合施設防火管理者が変更し今年度は未だ実施していない。複合施設内の協力体制はあるが、近隣の協力者は得られていない。定期的に機器点検を行い、備蓄は同施設の2階厨房に3日分準備している。	消火・避難訓練は年2回の実施が定められており、災害時に適切な対応ができるよう訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、接遇を意識し入居者様への声掛けに気をつけている。声掛けに不適切な場面では、職員間で注意し合うよう心がけている。	語尾を丁寧にするよう気を付け、職員間で注意している。利用者はゴミ箱作りや新聞たたみ等の役割を担っている。勉強を望む利用者のためタイプライターを用意し、気の済むまで打ってもらっている。支援時には扉を閉め、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、ご自分で衣服を選んでもらっている。自宅から姿見を持ってきておしゃれを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとり、野菜切り、食器洗いなど入居者様の力量に合わせた役割を行っている。	栄養士が作成した献立を事業所で3食調理している。運動会や敬老会等にはオードブルや刺身が大きな器に盛られ、食事が楽しい時間になるよう工夫している。利用者に合わせ治療食も提供し、食べやすい大きさにカットする等配慮している。食事前に口腔体操を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表を使用して栄養バランスは整っている。チェック表を活用して食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援を行っている。状態によっては、訪問歯科を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握、定時のトイレ誘導、オムツ交換を行い支援している。	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を支援している。自分でパットを交換し、正の字で自分で記録をつける利用者もいる。排便情報は必ず申し送り、服薬や水分をチェックする等排便コントロールを行っている。支援時にはタオルを掛ける配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々に応じた便秘予防(水分補給や運動)に取り組んでいる。毎朝、おやつ時に牛乳やヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定しているが、希望によっては曜日の変更の対応もしている。担当職員が入居者様のペースに合わせて脱衣、入浴、着衣、整容までの支援を行っている。	週2~3回午前中のシャワー浴を基本として一人ずつ入浴している。状態に応じ、移乗時2人対応や見守りはドアの外で待ち、後ろから背中を流すなど、プライバシーに配慮しながら出来ない所だけを支援している。拒否の無いよう前日から「明日入りましょう」と声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休息してもらえるように居室内外の環境、空調調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護職員を中心に薬の管理は行っている。薬の諸注意や用法についてはカルテに綴っていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好みを把握し、花壇の水やり、カラオケ、体操、塗り絵、マッサージなどを職員と一緒に楽しんでいる。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族と同行して近くの公園や隣の小規模ホームや階下へ散歩したり、おやつを買いにスーパーまで車で出かけたりしている。	施設の近隣や公園を散歩したり、職員とスーパーへ買い物に出かけている。ベランダでティータイムを楽しみ、気分転換を図っている。事業所で調理したお弁当を持参しての浜下りや桜まつり、初詣等季節ごとに外出を支援している。家族と県外へ帰郷される利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が家族管理。ホームではお小遣いを預かり、金銭出納帳に記入して買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望に応じて、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置に工夫、安全に楽しくつるげるよう環境づくりに取り組んでいる。	リビングは窓が大きく明るい作りで、訪問時窓にはクリスマスのデコレーションが施されていた。対面キッチンで利用者の状況を把握しながら調理ができる。利用者はソファや畳間で思い思いの場所でくつろぎ、横になったり足を延ばしている。浴室は暖簾、扉、カーテンの三重で見えない工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファの配置に気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用していた家財道具や小物などを自由に持ってきてもらい、できるだけ自宅に近い環境づくりを心掛けている。	各居室にベッド、車いす用洗面台、クローゼットを備え付けている。布団はベッド端に綺麗に畳まれ洗面台もケア後毎回掃除し拭き上げている。カレンダーや時計、お気に入りのハンドバッグ等を持ち込んでいる。習字の作品や花を飾り居心地良くなるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見分けるよう掲示物(表示)にて場所を示している。		